

# 宅老所 みんなのあもり 平成25年度4号

ひとりの人を大切にしまごころ介護  
ひとりの人の可能性を信じるまごころ介護



〒380-0941 長野県長野市安茂里 1861  
TEL/FAX 026-226-0903

グループもみじ

検索



# 歳忘れ会

宅老所みんなのあもりでは、毎年年末に歳忘れ会を行っています。年の瀬の寒さの厳しい一日でしたが、お年寄りを始めご家族やご近所のボランティアの方々が集まって下さいました。

卓上には様々なご馳走が並び、ビールも振る舞われて、皆さんが舌鼓を打っていらっしゃいました。お酒の好きなお年寄りもビールを召し上がり、その様子にご家族の方も自然と笑みがこぼれて「今までで一番楽しい歳忘れ会だった」と仰って下さいました。

途中からボランティアの方の楽器演奏も加わり、軽快な音楽に合わせて唱歌や童謡を皆さんで合唱して、大いに盛り上がりました。普段はなかなか見られないおどけた表情をする方もおられ、お酒を召し上げらずとも雰囲気心地良く酔われている様子でした。

宴もたけなわとなった頃合いに、スタッフからお年寄りの皆さんにクリスマスプレゼントが贈呈されました。皆で書いた寄せ書きの色紙とともに、ハンドタオルや映画のパフレットなど、各々のスタッフがお年寄りのために選んだプレゼントが贈られ、皆さん嬉しそうな様子でした。

締めくくりに皆さんでクリスマスケーキを召し上がり、歳忘れ会はお開きとなりました。また来年も皆で食べて、飲んで、楽しめると良いですね。



# ご自宅にて



ご家庭の事情で宅老所をベースに生活を送られているゆうきちさん、お正月に孫娘さんたちが帰省するのに合わせて、スタッフ付き添いのもと、ご帰宅されました。

玄関で「お帰りなさい、おじいちゃん」とご家族の出迎えを受け、リビングでゆっくりと過ごされました。

息子さんの介助にて、ゆうきちさんのお宅ではお正月の定番となっている縁起物のうどんを召し上がり、お酒やビールもとても良く召し上がられました。声かけに良く反応され、手も良く動かされていました。

最後にご家族と一緒に記念撮影をされ、「またね、いってらっしゃい」と送り出していただきました。



# 東北支援

グループもみじでは、東日本大震災の被害に遭われた皆様に支援をするために、12月16日から18日にかけて支援金と長野のリンゴを携えて宮城県を訪問しました。

一日目は気仙沼市に向かい、社会福祉協議会の方に復興状況と現在不足しているという「心のケア」についてお話を伺いました。

二日目には社会福祉協議会 本吉支所にリンゴを届けさせていただき、石巻市のグループホームへ。様々な交流のきっかけを作って自立に繋がる活動をされており、自立を促す＝被災者から脱却するという意味であると教えていただきました。

三日目は仙台市内にあるコミュニティライフサポートセンターにて、長野の皆様からお預かりした支援金をお渡しさせていただきました。



# 連絡ノートより

宅老所みんなのあもりでは、ご家族と連絡ノートを交わして、宅老所でのお年寄りの様子をご家族にお伝えするとともに、ご家庭でのお年寄りの様子を伝えていただいております。年明けよりみんなのあもりを利用されている、きみこさんのご家族との連絡ノートをご紹介します。



1月7日

「今日は七草がゆを食べる日だったので、簡単に作ってふたりで食べました。『美味しいよ』と言ってくれました。今振り返ると、私自身の仕事の忙しさからふたりの会話もいつとなく減っていき、おしゃべり好きな母の話し相手にもなってあげられてなかったです。今は努めて話しかけるようにし、また、何かをしてくれたら『ありがとう!』『助かったよ!』と声をかけるようにしています。すると、不思議なことに母の方からも、私のしたことに対して『ありがとね、悪いね』と返してくれるようになったのです」

2月4日

「なぜだか今日は帰宅してからずっと、夜食を食べている時なども、ご機嫌良く、とても穏やかな表情で落ち着いた様子でした。あんな母の顔、久しぶりに見たようで、私も本当に嬉しくて、ほっとした感じています。朝、そちらに向かう時は、鍵の心配と電気、ガス等のスイッチの確認を私に言ったり、帰宅すると廊下のカーテンを閉めてくれたり、今までの習慣を思い出したようにやってくれるようになりました。お世話になって早一ヶ月が経過しましたが、以前の混乱していた時の母と確実に違ってきております。なるべくおしゃべりをするようにして、なんでもないことでも声をかけてあげて、安定した気持ちでいられるように努力していこうと思います」

※写真と文章の掲載に関しましてはご家族の了承を頂いております。